

第 2 回命の里づくり推進交流会が盛大に開催される

2月4日に、ふるさと共援活動や里力再生事業に取り組む地域の住民や共援者など約 60 名が参加し、交流会を開催しました。地域の特産物を使った料理の試食、地域の特色を活かした取組状況の報告と意見交換会が行われ、年に一度は交流会を開催することを約束し、みんなで「ふるさと」を合唱し閉会しました。

特集

第 2 回命の里づくり推進交流会

平成 23 年 2 月 4 日
アグリセンター大宮

>>内容

和田振興局長の挨拶のあと、まずは各地の特産物を使った料理の試食による大交流会です。ごぼうやさといも、豆を使った料理、伊根町でとれた新鮮なハマチの刺身、小豆ご飯と古代米ご飯と白米のご飯 3 種盛りなど、各地のおいしい味に舌鼓をうちながら交流が進みました。

その後、ふるさと共援活動や里力再生活動に取り組む 3 地区の住民代表と共援者から活動報告を頂きました（裏面を参照）。地区ごとに課題が違い、それぞれ特色のある取組をしていることがわかりました。また、意見交換では、参加された全ての地区から一言ずつ日頃の活動内容や思い等を発表していただきました。最後に恒例の「ふるさと」を全員で合唱しました。



各集落から発表していただきました。



スライドを使って発表



最後は「ふるさと」をみんなで合唱しました♪



地域の報告から

■ □ こんにゃく栽培に取り組んで

宮津市日ヶ谷地域（藤原 静代さん）

宮津市日ヶ谷地域では、活動休止していたグループを立ち上げ、こんにゃくやみそ、漬物などの製造を再開しました。手作りこんにゃくはイモを栽培するところから始めました。宮津市のまごころ市や京都市の錦市場にある老舗の八百屋に出荷して、大変好評です。グループの活動を通して、これからの地域が良くなっていけばよいと願っています。

■ □ 自然とのつながりを大事に

京丹後市弥栄町田中（岡本 毅さん）

共援者である同志社大学の学生達の活動や地域住民とのふれあいを中心に編集された写真・動画のスライドショーを紹介。安全な米づくりを始め、地域の自然、環境、生活の源である清流野間川を守ることが活動の原点であり、山・川・海・人との繋がりを大事にした地域づくりを進めていることを報告され、当日は「味土野の雪かきをせんなんので」ということで急いで帰られました。大雪で大変な中、ありがとうございました。

■ □ 里力再生事業に取り組んで

与謝野町滝・金屋（皿木 利武さん）

取組の成果として、交流活動により集落や世代を越えた住民の絆が深まったこと、地域ぐるみで獣害対策を実施し安心して暮らせるまちづくりに取り組んだこと、また、新規就農者の受入れと育成について紹介されました。今後の課題として、「リフレかやの里」の営業再開における地域組織との連携方法

や事業終了後の組織の継続について報告されました。

■ □ 共援者として3年間取り組んで

京丹後市丹後町上山（共援者 柏尾 珠紀先生）

上山には農地周辺の環境整備や水源問題、人口減少などの課題があり、解決に向けて一緒に取り組んできました。その中で学生たちは「農業のありがたさ。自然の力」などに気づきました。さらに、通うことから、信頼の深まり、楽しみや喜び、厳しさの共有、人が人を連れてきて人の輪が広がる、スモールビジネスの芽の発見などに結びついています。今後は、ネットワークの拡大や特産品の開発など引き続き一緒に取り組みたいです。



参加者全員で試食用の料理づくりや配膳をしました。



各地の特産物を活かしたごちそうに箸が進みました。